

子牛・母牛の暑熱対策

2012.7.11-12 市場研修会 おおいた肉用牛振興協議会

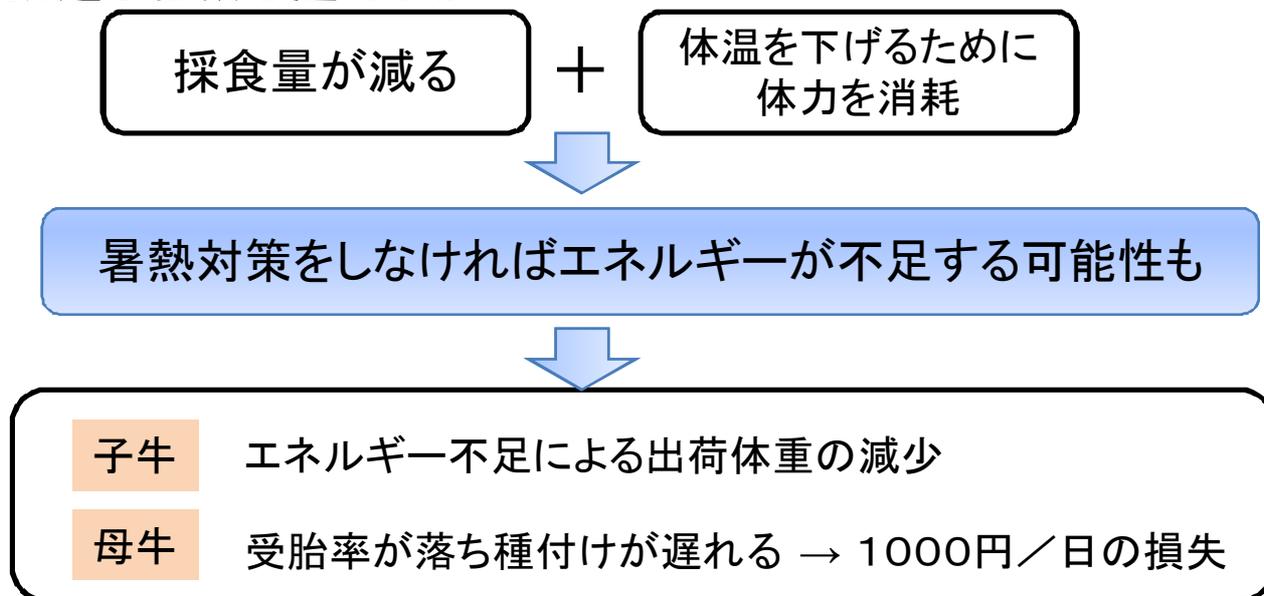
1. 暑熱の影響

牛の快適な温度は15～25℃で、上限臨界温度は26～30℃。温度が上昇しても、発汗、呼吸、血管の拡張で体温を保つことができます。しかし、更に上昇し臨界温度を超えると、採食量を減らし熱の発生を減らすことで対応します。それ以上に温度が上昇し、対応できなかった場合、死に至ることもあります。

また、昨年は7・8月の平均気温が27.2℃、最高気温は35.2℃で今年も更に高温が続くことが考えられます。

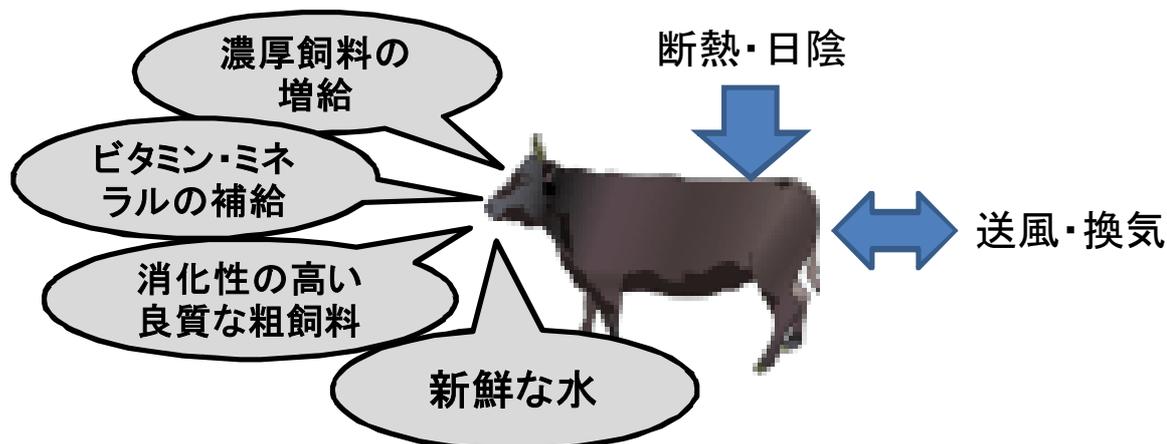
対策をすることはますます重要な取り組みになっています。

2. 快適な温度を超えると・・・



3. 対策は・・・

※施設と飼養管理の対策を



暑熱対策で工夫する事

直射日光から牛を守る

遮光ネットやグリーンカーテンの利用



90%遮光ネット
2m × 5m
1,000円ほど



遮光カーテンの作り方

- ①通気を妨げないように設置して下さい
- ②園芸用ポールなどで固定してください
- ③西日があたるところなどに設置してください
牛がイタズラできないよう十分な距離をあけてください

直射日光から飼料を守る



飼料タンクの暑熱対策

- ①キャンピングマットを用意してください
(90cm × 1.8mで1000円程度)
- ②飼料タンクの屋根の形に切り取り、スプレー式ボンドで接着してください

なにもしていないと夏場のタンク内の温度は
50°C~70°C近くに

その他

○扇風機を回していても、一度牛房に入ってみて本当に涼しいかどうか確かめてみてください。

○湿度の高いこの時期は、粗飼料にカビがはいりやすいので注意してください。

※ご不明な点は、最寄りの振興局にお尋ね下さい。